

その「物語」、の物語。

“ペログリ”的複眼思考の味わい vol.149

a taste of Ya'ssy

田中 康夫



たなかやすお ● 56年東京生まれ、作家。'00年より長野県知事を2期務める。'07年に参議院議員に当選。'09年に衆議院議員に当選、1期務める。『文藝』(河出書房新社)2013年冬季号から17年ぶりに小説の連載を開始。【公式ブログ】<http://www.nippon-dream.com/>



GDP減少、格差拡大、産業空洞化をそのままに、相も変わらぬ100兆円超えの放漫財政

今週の逸品



冷たい肉そば 850円

菊地剛志氏が営む。昔では「港屋」。現在は胡麻・刻み海苔と黒光りする蕎麦。辣油も入った濃厚汁。大盛り100円増し。生卵入れ放題。"虚ろな農村"の娘的相談の案内嬢が外に立つ。明度も彩度も低い店内には真

【Minatoya】東京都港区西新橋3-1-10 ☎03-5777-6921
営11:30~17:00、17:30~20:00 休日:土日祝 禁煙

illustration by Hajime Anzai

「株価」こそ経済の「豊かさ」指標だと巧言する向きが居ます。故に米国も日本も元氣なのだ。二百歩譲って、では同様に「豊かさ」指標と目される実質国内総生産(GDP)も比較しましょう。4~6月期の米国は前期比+14.2%。日本は-1.7%。年率換算で+6.8%。ウーム、異次元金融政策は「幻想」だったのかな。実質賃金指数は如何に? 「政権交代」の2012年12月と1年半後の今年6月を比較すると+2.4%も減少。今年1~3月期-1

・7%。4~6月期+3.4%。7月の給与所得者世帯の実収入+6.2%と10ヶ月連続減少。他方で7月の消費者物価指数は前年同月比+3.3%。ガソリン価格を筆頭に円安が輸入インフレを齎し賃金上昇率へ物価上昇率は明々白々です。「99%オキュバイ・ウォール・ストリート」ムーブメントが生じたら米国よりも、日本は国民格差・地域格差が顕著。一例を挙げれば、自動車関連産業が雇用を牽引していた栃木県の実質賃金指数は7%を超える減少なのです。

実質GDPに於ける外需寄与度+1.1%。内需寄与度+2.8%。差引-1.7%。即ち産業空洞化の証左。7月の貿易赤字は9640億円、25ヶ月連続赤字。経常収支赤字国への転落は必至の情勢。何れも政府発表の統計数値です。今こそ日本は「認識を改め・選択を変え・仕組を直す」べき。が、過去最高の101.7兆円に達した各官庁の次年度概算要求は、「来春の統一地方選を意識した予算の色合いが強く、新味の有る政策は乏しい」(共同通信)と冷評

される大盤振る舞い。使い残し比率35%が問題視された復興予算を差配する復興庁は15%増の概算要求。「高齢化に伴う社会保障費の自然増で初の100兆円突破」なる葱句が哀しい弁明に聞こえる放漫財政への途です。砂防ダムが有っても土石流を防げなかった南木曾町の悲劇は忘れ去られ、「砂防ダムさえ有れば」の「天動説」的幻滅の威を借りて大規模土砂災害対策に943億円を計上する本末転倒振り。堆砂の浚渫・森林の整備・家屋の移転こそ確実に地元雇用を生み出す地域密着型公共事業、と前回に諫言したにも拘らず(涙)。旧建設官僚・元岩手県知事増田寛也氏の「日本創生会議」が、「極点社会」の到来で、「523もの市町村が消滅」と「脅迫」観念の下に唱える「コンパクトシティ」「地域拠点都市」なる平成の「列島改造」も、一過性の公共事業で更に全国を疲弊させる愚行。人口が日本の半分のフランスには基礎自治体コミューンが3万6千余も存在し、人口200人のカマンベール村が持続可能なのは何故か? 毎年移民20万人容認で100年後も1億人維持を、と経済財政諮問会議が「日本を、取り壊す。大本営発表を真顔で語る彼の違いを反芻しながら、昼食時に「ビジネス戦士が並ぶMinatoya」で肉そばを食へましよう!